

ジャニーズから考える男性アイドルの存在意義と将来性

本論文では、ジャニーズのアイドル像と一般社会の男性像はどのように変容してきたか、そこには相関関係があるのかについて検討した。アイドルは「偶像的側面」と「人間的側面」の2つの側面を持つ存在であり、高い人気を持つ。ジャニーズにおけるアイドル像の変容について、3つの区間に分類し、同時期の男性像とリンクするのかが検討した。

まず第1期として1964年にデビューした初代「ジャニーズ」から1990年にデビューした「忍者」までのアイドル像と、1960年代から1980年代にかけての男性像について。第1期のアイドル像は「偶像的側面」が強く、女性を引っ張る存在であった。同時期の男性像は、強いイメージがあった一方で甘える男性像が存在していたことから、第1期のアイドル像と男性像はリンクしておらず、関連性は見られなかった。

次に、1991年にデビューした「SMAP」で形成されたアイドル像と、1990年代の男性像について。第2期として1991年にデビューした「SMAP」で形成されたアイドル像は、「人間的側面」が大きくなり、身近で親しみやすい、一般社会に近いような存在であった。1990年代の男性像は、女性性を持つ男性が登場し、女性には受け入れられていたが、男性には受け入れがたかったことから、ステレオタイプの男らしさに縛られた男性であることが特徴だった。第2期もまた、アイドル像と男性像はリンクしておらず、関連性は見られなかった。そして、1999年にデビューした「嵐」から現在にかけてのアイドル像と、2000年以降の男性像について。第3期として1999年にデビューした「嵐」から現代にかけてのアイドル像は、個性が多様化し、「男らしさ」から離れた「中性的」「かわいい」といった要素が個性となった。また、ファンはブロマンスを好むようになり、メンバー間の仲の良さが重視されるようになった。男性像もまた、草食男子やオトメンという女性性を持つ男性が登場したほか、男性自身の考える「男らしさ」が変化していたことから、アイドル像と男性像がリンクする部分が見えた。しかしそこには絶対的な相関関係があるのかは明らかにすることは出来なかった。すべての年代において、アイドル像と男性像にリンクが見られることはなく、関連性があるかどうか明らかにすることは出来なかった。しかし、どちらも変化していることは事実であり、男性像においてはステレオタイプの男らしさから多様な男性像が登場し受け入れられるようになっている。

また、第3期の2000年以降においては、少なからず社会の男性像の影響を受けている可能性がある。そこで、男性像もアイドル像も、ステレオタイプの「らしさ」から脱却した自分なりに生きられる社会にこれからなるのではないだろうかと考えた。